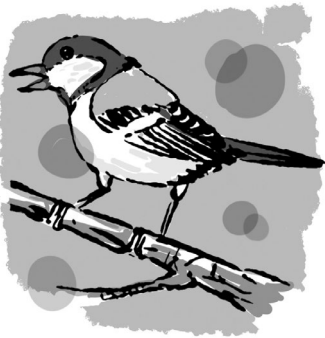


アメリカ・メジャーリーグで数々の記録を打ち立て、アジア人で初めてアメリカ野球殿堂入りを果たしたイチロー氏は、小学六年生の時に以下の作文を書いています。

ぼくの夢は、一流のプロ野球選手になることです。そのためには、中学、高校で全国大会へ出て、活躍しなければなりません。活躍できるようになるためには、練習が必要で、ぼくは、その練習にはじしんがります。ぼくは3歳の時から練習を始めています。3歳～7歳までは、半年位やっていましたが、3年生の時からは、365日中、360日ははげしい練習をやっています。だから、一週間中、友達と遊べる時間は、5時間～6時間の間です。そんなに練習をやっているんだから、必ずプロ野球の選手になれると思います。そして、中学、高校でも活躍して高校を卒業してからプロに入団するつもりです。そしてその球団は、中日ドラゴンズか、西武ライオンズが夢です。ドラフト入団でいいやく金は、一億円以上が目標です。

『13歳からの道徳教科書』育鵬社
この作文は、目標を立てることの大切さと、その実現に向けた道筋を私たちに教えてくれています。ポイントは次の三点です。一つ目は「決心することです。『なりたい』という願望ではなく、『一流のプロ野球選手になる』と断言しているところに、強い決意が感じられます。二つ目は「具体的なイメージを描く」とことです。入団したい球団や契約金の額に至



強固な決意は日々の努力の積み重ねから生まれる

るまで、明確な将来像を描いています。三つ目は「努力を続ける」ことです。目標とイメージの実現に必要な努力を、愚直に積み重ねていることが読み取れます。私たちも年の初めに新年の目標を立てることがあります。しかし、日々の忙しさに追われて、実現に向けて行動できなかったり、目標を忘れてしまったりすることもあ

るでしょう。「決心は九分の成就」という言葉があるように、決意することは行動に変化をもたらします。では、そうした強い決意はどのように築かれるのでしょうか。倫理研究所の創設者・丸山敏雄は、『万人幸福の葉』第十五条「信成万事」の中で次のように述べています。

練習するということは、その仕事なり、競技なりに慣れて間違いないようにするの、その形から見たところで、その実は、信念をつけるのである。信念をねりかため、ねりあげるのである。きつと出来るぞ、きつとやるぞ、と動かぬ信念がその事を成就させる。

イチロー氏の決心は、初めから強固なものだったというより、日々の猛練習の積み重ねによって確固たる「信念」が育まれていったといえるでしょう。

決心して具体的なイメージを描いた後は、そこから逆算して今の自分に必要な努力を重ねていく。その積み重ねによって決意をさらに強固なものとし、理想の姿へ近づいていきたいものです。